

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	JALSG Ph(+) B-ALL213 維持療法
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	成人フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	ALL-048
登録日・更新日	2021年10月26日
削除日	
出典	JALSG Ph+ALL213プロトコル
入力者	湯山 聡

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ピンクリスチン硫酸塩 (オンコピン注射用) 生理食塩液	1mg 100mL	1.3 mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	全開	day1
No.2	プレドニゾン (プレドニゾン錠)	1mg, 2.5mg, 5mg	60 mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日3回 *1	day1 - 7 *2
No.3	ダサチニブ (スプリセル錠)	20mg, 50mg	100mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日1回 *3	day1 - 28

1コースの期間	35日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【開始基準】 好中球数\geq1,500/μL、血小板数\geq75,000/μL T-Bil$<$2.0mg/dL、血清Cr$<$2.0mg/dL 末梢神経障害がGrade2以下、その他の非血液毒性がGrade1以下 活動性の感染症を認めない</p> <p>【減量基準】 ・ピンクリスチン Grade2の神経痛:50%に減量。 Grade3の神経痛または末梢性運動・感覚ニューロパシー:休薬。Grade1に改善した場合、50%に減量して投与再開。 Grade2のイレウス:休薬。症状が消失したら、50%に減量して投与再開。 Grade3のイレウス:投与中止。症状が消失したら、ビンデンシン(VDS) 3.0mg/m²(最大4.0mg)に変更する。 VDSでも再発した場合は投与中止。 T-Bil 1-2.5mg/dL:50%に減量 T-Bil $>$2.5mg/dL:25%に減量</p> <p>・プレドニゾン Grade3(随時血糖$>$250)の高血糖かつ尿中ケトン体陰性:PSLを半量とする。 Grade3(随時血糖$>$250)の高血糖かつ尿中ケトン体陽性:PSLを休薬とする。Grade2以下となれば半量で再開。 Grade4の高血糖、活動性の胃・十二指腸潰瘍、Grade3以上の精神障害:スキップ</p> <p>・ダサチニブ Grade3以上の好中球数減少、血小板数減少:Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後、初回の休薬では同一レベルで再開するが、2回目の休薬では用量レベルを一段下げて再開。50mgでGrade3以上の血液毒性が出現した場合、次のコースを開始するまでスキップとする。 Grade2の非血液毒性:対症療法を行っても症状の改善がみられない場合、Grade1以下に回復するまで休薬。回復後、初回の休薬では同一レベルで再開するが、2回目の休薬では用量レベルを1段下げて再開。 50mg/day未満では同一コースでの投与をスキップする。 Grade3/4の非血液毒性:Grade1以下に回復するまで休薬。回復したら用量レベルを1段下げて再開。 Grade3/4の有害事象が出現するたびに用量レベルを1段ずつ下げて50mg/day未満では同一コースでの投与をスキップする。</p> <p><ダサチニブの減量の目安> 用量レベル0 100mg 用量レベル-1 70mg 用量レベル-2 50mg</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<p>*1 不眠等を考慮して、一日総投与量を保つかぎり、夜の投与量を減らすなどの不均等投与可能 *2 day21まで投与後、1週間で漸減し終了する。漸減方法は 30 mg/m²/day 2日間、15 mg/m²/day 2日間、5mg/m²/day 3日間とする。 *3 朝食後に服用すること</p> <p>・ピンクリスチンの最大投与量は2mg/body ・イトラコナゾールの使用は極力避けること。 ・合計12コース実施する。</p>

記入者	湯山 聡
確認者	寺尾 俊紀